

# 読書感想文の書き方

## 1 本を選びましょう

感想文を書くにはまず本を決めなければなりませんね。自分の好きな本で書くのが一番なのです。普段本をあまり読まない人は、題名や表紙だけでさがすのはむずかしいでしょうね。どんな本を選ぶと感想文を書きやすいでしょうか。

いろいろな種類の本からさがしてみましょう

大きく分けると

フィクション...物語(小説)や外国の物語、昔ばなし、探偵小説(推理小説)、冒険物語、ファンタジーなど 作られたお話

ノンフィクション...ある人の生き方や考え方を書いた本 伝記、科学読み物や旅行記などの種類があります。多くの種類の中から自分に向いているものをさがしましょう。

とりあえず5冊

手始めに、5冊読んでみましょう。初めから終わりまで読む必要はありません。自分に向いているかどうかを見きわめるために読むのです。題名や表紙だけではどんな本かわからないので、読んでみるのです。気に入った本がなければ、選び直しましょう。

おもしろいだけでなく、テーマや内容がわかりやすい、書く事(自分の意見)が思いつきやすいのが、読書感想文を書くのにはいい本です。

自分にとって興味のないことについて作文を書け、といわれても全然書く事が出来ませんが、自分にとって言いたい事や主張があることに関しては文章が書きやすいですよ。フィーリングが合う本を見つけると感想文がスムーズに書けます。

## 2 より深く本をさがしましょう

気に入った本が見つければ、同じ作者の本を、もう一度5冊みつけましょう。芦屋市立図書館では、作者順にならんでいるので見つけやすいと思います。インターネットで芦屋市立図書館の本をさがすと貸し出している本も、書庫にしまっている本も表示してくれます。

同じ作者の本を5冊読むのはこんな理由です。

- (1) 一人の作者が同じテーマで書いていることが多いからです
- (2) 作品によって意見の持ちやすい作品とそうでない作品があるからです
- (3) 感想文に「こちらの本にはこう書いてあって、別の本にはこう書いている」なんてことを書くと、たくさん読んでいるように思われてカッコいいからです。

たとえば、6年生の教科書に出てくる宮沢賢治の作品で、「注文の多い料理店」は読んで楽しい物語です。「グスコブドリの伝記」はテーマがはっきりしています。しかし、「おもしろかった」というだけでは、感想文を組み立てることはむずかしいです。テーマがわかりやすい作品で、自分の意見が持ちやすいとか、現在と比べてみるとか、自分とくらべてみることができるよう、感想文の組み立てがしやすいです。だから、同じ作者の本を5冊読んでみることをすすめているのです。最初の5冊と同じで、どれも初めから終わり

まで読む必要はありません。気に入った本を見つけて読みましょう。

### 3 さがす手がかり

どの作者の本がいいかわからなければ、教科書を手がかりにするのは一つの方法です。教科書に作品がのっている人のほかの作品を探してみるといいでしょう。教科書の作品は一部分をとったり、短くしている場合が多いですから、もとの作品（原作）を読んでみるのもいいかもしれません。

本屋さんに行くと、読書感想文の課題図書というオビをつけてたくさん売られています。出版社がおすすめている本ですから、それなりによい本ということができます。課題図書は、おはなしが2冊、おはなしではないものが1冊になるように選ばれているようです。その作者の本をさがしてみるのもいいかもしれません。

全国読書感想文コンクール課題図書は、毎年違う本が選ばれます。以前の課題図書から選ぶのもいいかもしれません。

#### 課題図書でなくていい

全国読書感想文コンクールは、1類が自由読書（フィクション）ですから物語などのお話、2類が自由読書（ノンフィクション）ですから科学読み物などです。3類が課題読書ですので課題図書が紹介されているのです。つまり、読書感想文を書くための本は何でもいいのです。きまりでは「テキスト類、雑誌（別冊付録を含む）、パンフレット類はだめ」となっています。ふつうの本なら何でもいいのです。

推理小説や冒険物語 ファンタジーやSFなど「面白い」と思っても感想文にはしにくいです。自分がどこでどう感動したか、興奮した点はどういうところか、なぜ面白いのか、といったところまで考えないと感想が書きにくいです。登場人物をくわしく描いてみるとか、この組み立て方や書き方がいいといった意見を持たないと感想にならないからです。書くことがないからといってあらすじで埋めたのではよい感想文にはなりません。感想文としてのテーマを見つけられなかったら、楽しみで読む本にしましょう。

物語があまり好きでない人は、科学書や知識を増やすための本を読むかもしれません。でも、作者の考えなどがかかれていない純粋な知識本は、自分の意見を持ちにくいです。つまり、感想文が書きにくい本ですので注意しましょう。事典や図鑑のようなものを読んだのでは読書感想文など書けるわけではないでしょう。

### 4 書き方の基本

本を読んだら、いよいよ書きはじめます。感想文の書き方は人それぞれですが、書きやすい、あるいはまとめやすい方法を紹介します。あくまでヒントとして活用してください。

#### 1 メモをとる

作文の書き方では必ず登場するのが「読書メモ」です。メモですからていねいに書かなくていいです。読みながら適当な用紙に箇条書きに書いておくだけでいいです。文章になっていなくてかまいません。その時に何を思ったのかを思い出すためのメモです。

思いついたことをいろいろ書いたら、その中から筋が通ったものを選びます。同時に書

く順番も決めていった方がよいです。

ここで大事なものは主題を一つ決めることです。一番いいなというものに 印をつけて、後はそれを引き立てるためのものを選びましょう。たくさん思いつかなくても、主題さえ決まれば、それについてあとから書き加えてもいいのです。

## 2 本のことを書かなくてもいい

感想文のコンクールの優秀作品は、たいてい本の感想ではなく、自分の事を書いています。読書感想文とは、面白かった、感動した、悲しかった、印象に残った、などを書くものではないということです。

感想文とはその本を読んだことをきっかけにして、自分の意見を書くことなのです。意見が持てないと、話すことも文章を書くことも出来ないでしょう。本を読んで自分と作者とのつながり、共に流れる意見や自分の生き方や考えの関係を書くものなのです。

その本の中から自分と関係のあるものを見つけ出して自分のことを書くと、感想文としてまとめやすいです。したことを書く作文が得意なのに感想文は苦手という人は、自分の意見をしっかりと持てていないのじゃないかと思います。「感想」文という言葉にとらわれないで、「意見」作文を書けばいいのです。

例えば「おばあさんと女の子の心の交流」を描いた物語があったら、自分のおばあさんとの事を書けばいいわけです。自分の体験を読書をきっかけにして作文にするのです。読書メモを見て、読みながら思い浮かんだ自分のことをメモしていない（本の読み方がまちがっていた）と気づいたら、もう一度読んでみましょう。

## 3 組み立てましょう

初め 中 終わりにわけるのが簡単です。これが基本です。起、承、転、結という4つにわける方法もあります。

先ほどのメモを並べて、どれを中心にするか、どれを終わりに使うか、書き出しはどうするかを決めます。大まかなものでいいです。メモに書いたことをどこに入れるかが決まったら、まだ原稿用紙に書かなくてもいいです。どういった流れで書いていくかを頭の中でイメージするのはいいです。しゃべってみるのもいいです。そうすることによって細かな構成がきまってきます。

### 構成の例

- |     |  |
|-----|--|
| はじめ | 書き出し（どうしてこの本を選んだのか・前評判・最初の感想・など）<br>あらすじ（なるべく簡潔に書く。粗筋で字数を埋めようとしない）                           |
| なか  | 単純な感想（面白かった、悲しかった、びっくりした、感心した、などの基本的な感想）<br>自分の体験や考え（作者の考えとあわせて）<br>スパイス（逆説の接続詞っぽい感想。違う視点で。） |
| おわり | テーマを踏まえた、まとめの感想<br>自分の変化（この本が自分に与えた影響）   |

## 4 書く

一応メモを見ながら書きますが、きちんとメモを守る必要はありません。ある部分を長く書いてしまったら削るし、逆にいっぱい余ってしまったら、中の部分を増やしたりしな

ければなりません。読書メモはあくまでメモにといたのはこのためです。

### 書いているときの注意点

- ・ 主題から脱線していないでしょうか。
- ・ 何度も読み返して、感想文が流れにそっているか、箇条書きになってしまっていないか、などをチェックしましょう。
- ・ 句読点は少なすぎないか、多すぎないか、同じようなつなぎ言葉が多くないか、改行が多すぎないかを気にします。
- ・ 改行ははじめ、中、終わりの境目では必ずしましょう。
- ・ 文章が変になるようなら、「、」よりも「。」を多くして短めの文にすると歯切れのいい作文になります。書いているときは全部書いてしまいたい、という人は下書きの原稿用紙を用意して何度も書き直すのもいい方法だと思います。
- ・ 引用やあらすじが多すぎないようにしましょう。
- ・ 枚数は、できあがりをおよそ3枚にするのなら、5枚以上は書きましょう。そこから無駄なところを整理していくとよい感想文にまとまります。
- ・ 原稿用紙の枚数を調整は、あとでするほうがいいです。書くときにはとにかく書くことにしましょう。

### 5 見直し

見直しは4のところで行った注意点をもう一度確認するだけです。誤字のチェックもしましょう。一晩たってから行なうとより客観的に見ることができて、正確な見直しができるかと思えます。

とりあえず書き上げたら、もう一度本を読んでみましょう。それから見直しをすると、もっとよいことを思いつくかもしれません。

よい作文のポイントを書いておきます。全部入っていないからマズイということはありませんから、書きぶりの参考にしてください。

- 1 色やようすをあらわす言葉がはいっていますか。
- 2 数値が入っていますか。(すごくたくさん...よりも具体的な方がいいです)
- 3 感動が伝わるように書いていますか(感動した...と書いたのでは下手だと思ってしまう)
- 4 会話文が入っていますか(会話文を入れると、具体的なようすがわかりやすくなります)
- 5 文末の書き方がそろっていますか(です、ます調、である調など)

### 6 ねりあげ

何日かたってから読み直してみましょう。すると、無駄な文が見えてきたり、書き足りないところが見えてきます。自分が書こうとしたテーマに沿って、いらぬ部分をけずり、大切な部分を書き足していくと、きつといい作文ができあがります。最後には規定の枚数になるようにしぼり込むのです。無駄な部分をけずった感想文は、スキのない作文になっていることでしょう。

一日で読書感想文は書けないということがわかりましたか？ 長い休みだからこそ書けるのです。早めにとりかかりましょう。